



ご挨拶

眼科 医戒田 真由美

平成26年1月より当院眼科に着任しました戒田(かいだ)真由美と申します。

平成7年に大阪市立大学医学部を卒業、その後約20年間大阪市立大学医学部付属病院眼科を中心に勤務していました。2年間アメリカに留学していました。野上病院では一昨年の9月から水曜日の午前中を担当していましたので、すでに何度か診察させていただいている患者様もいらっしゃると思います。専門は網膜疾患ですが、白内障、緑内障など眼科全般について診察いたします。

以前のすこやかニュースでも紹介しましたが、当院にはOTC(光干渉断層計)という検査機器があります。これにより網膜、特に黄斑部疾患の診断が飛躍的に正確にできるようになりました。いま話題の加齢黄斑変性や網膜前膜、黄

斑円孔などの疾患についての検査ができます。また視神経の緑内障による影響についても調べることができます。そのほかにも視野検査、網膜電位図など、目の病気について検査をするのに必要な機器は十分に揃っています。

手術については白内障はもちろんですが、加齢黄斑変性に対する硝子体注射による治療、網膜前膜や黄斑円孔の手術も行っています。糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、網膜裂孔に対する網膜光凝固術に対するレーザー治療もしています。遠くの病院に行かなくても自宅から通える範囲で治療できることを今後も目指して行きます。どうぞよろしくお願いいたします。

診察ではなくても目の病気についてのご質問があれば、ぜひご来院下さい。

おしりの悩み

おしりから出血がする、何かが出ている、おしりに痛みがある、調子が悪いなど、はっきりとした自覚症状があるにもかかわらず、肛門科には行きにくいものです。その理由は「手術をするのはいや」「おしりを見せるのが恥ずかしい」などが多いように思います。

しかし放っておいて悪化した後では本当に手術しなければならなくなることもありますので、おしりに違和感を感じたら、症状が軽いうちにご来院ください。

注射による痔核硬化療法

痔核(いぼ痔)の治療には、「ジオン」という注射液があり効果があり有效です。

脱出や出血を伴ういぼ痔内に直接注射をして組織を固め、癒着、固定させ、いぼ痔を小さくする新しい治療方法です。従来の手術療法と違い、肛門部を切りませんので痛みが少ないと利点があります。実際には局所または表面麻酔をして肛門の筋肉の緊張を十分にとり、その上で1つの痔核に対してジオン注を4カ所注射します(4段階注射法)。治療は20分程度で終了です。注射後の下腹部の重苦しい感じ、一過性の発熱などがないかを見るために1~2日間の入院が必要となります。通常の痔核手術と比べて入院期間が短縮でき、最近多くの方が受けられ満足されています。

しかし4段階注射法という高度な注射技術と知識が必

要とされるため、全ての医師ができるわけではなく、肛門診療に精通し、なおかつ注射法に必要な知識や技術を習得するための講習を修了した医師でなければ施術できません。また全てのいぼ痔に適応できるわけではありませんので、ご希望の方は当院にご相談ください。

食事・内服薬などは普段通りです。洗濯や掃除・買い物といった日常生活に制限はありません。入浴や排便は翌日から可能で、費用は(国保本人3割負担で)1泊2日で約3万円となります。

